

【議事】定2

(2)月探査戦略に関する国際動向

JAXAの川口先生が資料2-2を説明した。NASAが提唱する国際探査戦略について、シンポジウムが開催されたので出席し、その概要を説明するものであった。前回までと大きく違ったことは、プログラム オブ プログラムからシングルプログラムへの転換が示唆されたことで、NASAは国際協力が得られなくても月探査を実行するという意志が表明されたことである。日本は独自の独立したプログラムで参加・貢献を考えていたので、大きな変化になると云うことで、下記のように活発な質疑応答が続いた。

青江:月探査の初期段階でNASAが国際協力を期待しているのは何か。

JAXA 川口:ハッチングしていないものは全て国際協力を期待しているものになる。初期ということになれば居住施設、ローバー、その場試験が挙げられるし、無人では通信施設、物資補給などがある。

池上:何故米国単独でも進めるということになるのか。国威発揚¹と何か理由が推定できないか。

¹ これは殆ど「死語」ではないだろうか。宇宙を国民の求心力に利用しようと考えているのは中国位であり、それも軍事技術の練磨を目的にしている可能性がある。

また、米国が国際協力を呼びかけている理由の一つに、「米国だけが突出しない」と云う考えがあると思われる。欧州は、米ソの冷戦時代からこの点を重要視していた。「米国だけが突出しないように、最小限の予算で国際協力を進める」のが、日欧共通した基本戦略になるのではないか。

JAXA 川口:自分がNASAの代弁をすることはできない。ただ、NASAはGESをポストISSの活動と位置付けていると認識している。

池上:NASAがサバイブする戦略²であるということか。

JAXA 川口:JAXAとしてはそのように見ている。

青江:プログラム オブ プログラムからシングルプログラムへの転換というのは大変大きな変化である。日本としては単独にクローズし、それで貢献できるものなら参加できると考えていた。ところがでかものを一本でやることになった。³NASAは路線を変えようというのか。取り組みが難しくなった。

JAXA 川口:NASAの案であり、決定したわけではない。次回京都で、またその次イタリアでコンファレンスがある。その場でさらに議論が続けられることになる。変化であるとは認識しているが、決まったわけではない。

青江:(再度繰り返し発言)

JAXA 川口:危険性はあると思うが、ここ一年が大切で、自立性が高め

² これも「完全に適切」とは云えないように思う。「国民に賛同してもらえる、目を見張るようなプロジェクトをやらないと、NASAが潰れてしまう。」と考えては居ないと思う。火星移住のような構想は荒唐無稽に映るかもしれないが、人口爆発と食糧危機に科学の力で対応するには、これしか考えられないのではなかろうか。馬鹿馬鹿しく先の心配をすることはあっても、組織維持の姑息な手段を考えるようなことはしない国民だと思う。

³ 乱暴ではあるが、危険な傾向を的確に捉えた発言であると考え。プロジェクトを明確に定義し、そこに時間軸を明示し、分担を決めて取り組むのは、米国人が安心できる形態であろう。日欧が考えることは、米国だけが突出することと、自国の宇宙予算が突出することを、上手に阻止することであろう。

られるようにがんばって行きたい。

松尾:ISS の反省から「プログラム オブ プログラム」を考え出したのに、元に戻っているように見える。そんな中で各国が歓迎しているというのはどうしてなのか。

JAXA 川口:シングルプログラムを歓迎するというのではない。プログラムが広がっていることを歓迎していると思う。

池上:「国際」との名称であるが、全然国際ではない。

JAXA 川口:NASA が提唱する国際プログラムという意味であると認識している。

野本:南極付近のシャクルトン クレータというのは聞いたことが無い名前であるが、決まったことなのか。

JAXA 川口:その方面では有名な場所である。昼夜の環境変化が小さいことと、まだ調査が十分ではないが水素がありそうなことで、シャクルトン クレータが候補になっている。水素のスペクトルが確認されているが、どのような形態で存在しているのかはわかっていない。

松尾:その水素は月で利用しようとしているのか。

JAXA 川口:そうである。

青江:京都で(計画が)何処まで進むと予想するか。

JAXA 川口:NASA 長官や ESA 長官がキーノートアドレスで何を発言するかは分からないが、国際協力の枠組み文書が審議される。それにしたがってプログラムが進められることは変わっていない。

青江:以前からの話ではまあまあ良い方向に向かっている、日本としてはそれなりの貢献が可能であると楽観視していたが、今日の話でそうも言えないと不安になった。

JAXA 川口:ヨーロッパとわが国は近い考えを持っている。文書を言い出したのはヨーロッパであり、NASA が言い出したのではない。

また、NASA がこれを認めている。

松尾:プログラムの切り分けが京都で出されるという心配は無いのか。

JAXA 川口:その可能性が無いとは言い切れない。カナダがそれに近い発言をしている。

松尾:別の機会にその辺りを聞かせて欲しい。